

伏見小だより



伏見っ子

平成30年度5月号

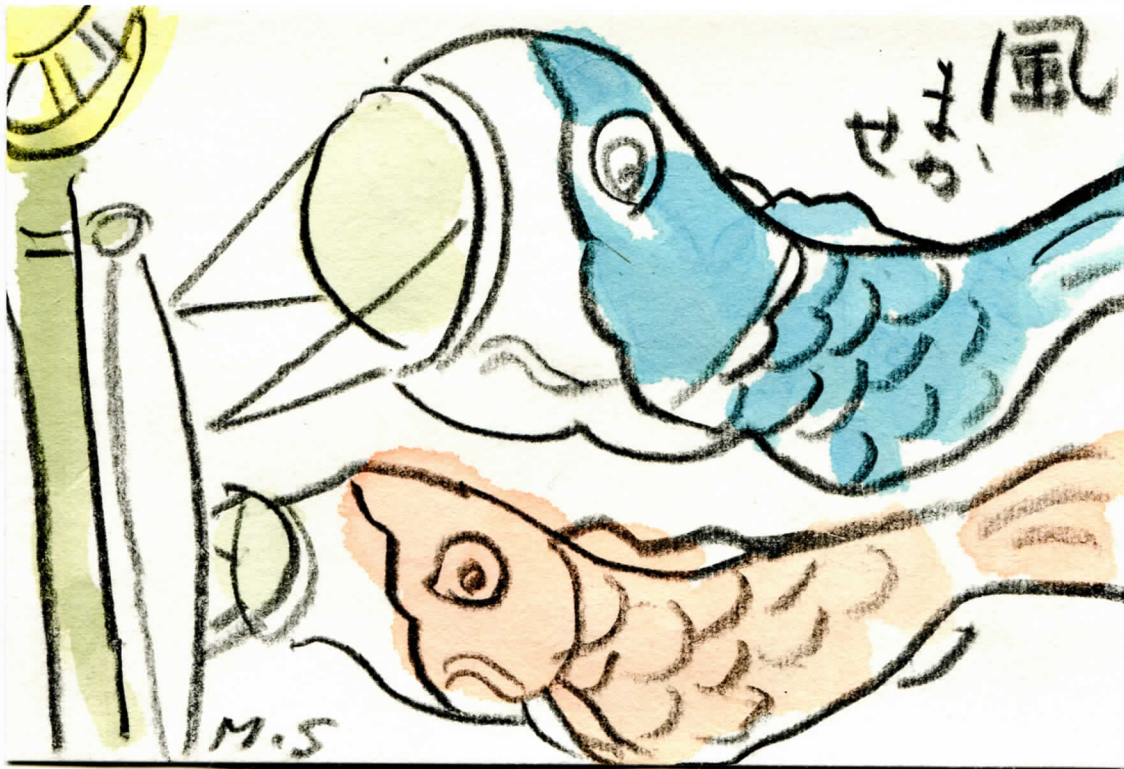
H30.5.1.発行

学校の教育目標

よく考え仲間とかかわって行動できる子

伏見っ子のぼり

校長 佐野 政紀



鮮やかな新緑に心癒され、風薫る5月となりました。伏見っ子は明るく元気に学校生活を送ることができています。高学年は、学校のリーダーとしての自覚が芽生え、朝夕の登下校や掃除の時間などで下級生を優しく面倒みてくれています。

今、伏見公民館に「世界にひとつだけのこいのぼり」が泳いでいます。公民館のご厚意で、子どもたち一人一人の「夢」をウロコに書いたものを鯉のぼりにのせてくれています。悠々と願いをのせて泳ぐ姿に足がとまります。もともと鯉のぼりは、江戸中期、子どもの健やかな成長を願って町民が始めたものと言われています。中国に伝わる登竜門の伝説になぞらえ、竜門の滝を登り切ると鯉が竜になるように、我が子も健康に育ち、将来は大きく成長して欲しいとの気持ちを込めたものだそうです。また、「ここに子どもがおります。お守り下さい。」と天に向かって伝える意味もあるのだそうです。公民館展示は5月5日までです。

連休は始まっておりますが、いろいろな場所に出かけた折には、子どもたちに季節のことや、それとともに伝えられてきた古くからの風習について話してあげてください。その土地にまつわる話があればなおよいです。豊かな休日を過ごし、心を養い、伝統を学んで、より豊かに育つよう願っています。